

# ろうさい ニュース

令和2年

6月号

第430号

当院に患者さんをご紹介くださっている先生方には、感謝申し上げます。  
地域の皆様からの信頼に応え続けるために「アットホームなハイクラスの病院」  
を理念に取り組んでいます。

## ■画像診断機器共同利用の運用を変更いたします。

連携医療機関の先生方から放射線画像検査の依頼をいただく際、別紙の「放射線科検査申込用紙」を御利用いただくことで、スムーズな受付が可能となります。

### <検査依頼手順>

- 1 「放射線科検査申込用紙」に必要事項を記入の上、地域医療連携室へFAXでお申込みください。
- 2 地域医療連携室に電話をいただくと、予約日付、時間等をお伝えし、検査説明書等をFAXで返信いたします。
- 3 検査前日までに患者紹介状（診療情報提供書）、問診票等を地域連携室までFAXしてください。
- 4 受診予約をされた患者さんには、受診当日、予約時間の20分前までに紹介受付9番へ紹介状と保険証を提示くださいますようお願いいたします。

今回の依頼手順の変更に伴い、これまでのCT、MRIに加え、核医学（RI）検査及び骨密度検査の共同利用も開始いたします。核医学検査は悪性腫瘍の精査・経過観察や認知症をはじめとする神経疾患の診断、内分泌疾患の評価、腎機能評価等に有用です。必要時にはご依頼いただければ幸いです。

また、令和2年2月のろうさいニュースでもお伝えいたしましたとおり、令和2年1月より放射線科に常勤医が着任いたしました。正確な診断を心掛けて参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

放射線科部長 山下 修平

資格等：医学博士、放射線診断専門医、核医学専門医、PET核医学認定医、

IVR専門医

## ■脳神経内科（神経内科）で扱う疾患について

脳神経内科（神経内科） 武田 清明

今年度から浜松労災病院の脳神経内科（神経内科）外来を担当いたします武田と申します。

私の専門である脳神経内科（神経内科）とは、一般的にはなじみの薄い診療科ではございますが、脳梗塞や認知症など、患者数の多い疾患も多数扱っております。

対象となる主な疾患についてご紹介いたします。



### ●脳梗塞

脳の血管の血流が途絶える(梗塞)、血の塊などが脳の血管に詰まる(閉塞)ことで、閉塞・梗塞した血管周囲の脳細胞が死滅し、様々な症状をきたす疾患です。脳梗塞は主に3つのタイプに分かれます。

#### <ラクナ梗塞>

心臓から出た血管が脳に入ると太い血管から細い血管に枝分かれしていきます。この細い血管が狭くなって詰まるのがラクナ梗塞で、高血圧の方に起こりやすくなります。

#### <アテローム血栓性梗塞>

動脈硬化(アテローム硬化)で狭くなった太い血管に血栓ができて血管が詰まるタイプの脳梗塞です。喫煙や高血圧、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病が主な原因です。

#### <心原性脳塞栓症>

心臓にできた血栓が血流にのって、脳まで運ばれ、脳の太い血管に詰まることで起こります。主に不整脈(特に心房細動)が原因です。

治療は超急性期(発症 4.5 時間以内)には t-pa の点滴による血栓溶解療法が可能となります。それ以降は抗血小板薬や抗凝固薬、脳保護薬の点滴や、リハビリテーションを実施します。

### ●アルツハイマー病

認知症の原因として一番多い病気で、物忘れ(人や物の名前が出てこない、何度も同じお話を聞く、新しいことが覚えられない)や思考力・判断力の低下などがみられます。また物忘れに加えて徘徊や暴言・暴力・幻覚・妄想などが現れ、日常生活に支障をきたします。病気そのものを治す薬はまだありませんが、症状の進行を一定の期間遅らせる薬があります。

## ●パーキンソン病

ドパミンと呼ばれる神経伝達物質を作る脳の部分が変性し、ドパミンが不足することで症状が出現します。動作が遅い、手が震える、歩きにくい、などの症状に加えて、睡眠障害(不眠、眠気)、精神症状(抑うつ、せん妄)、自律神経症状(便秘、起立性低血圧)が出現することもあります。ドパミンの働きを補う薬物を投与することで、症状の改善を図ります。現在多数の薬剤が使用でき、それらをうまく組み合わせて症状をコントロールします。

## ●てんかん

脳の神経細胞が異常興奮することで、意識消失・けいれんなどが出現します。興奮する部位や程度により多彩な症状が出現します。発作の型に応じて最も適した抗てんかん薬で治療を行います。

## ●脳炎・髄膜炎

ウイルスや細菌、まれに結核菌や真菌(カビなど)の感染によって、脳や脳を取り囲む髄膜に炎症が起こります。発熱や頭痛、意識障害、けいれんなどが起こります。脳脊髄検査を行い迅速に診断し、治療することが重要です。原因となる病原体に応じた抗生物質や抗ウイルス薬などを使用します。

## ●ギランバレー症候群

何らかの免疫反応が末梢神経に対して生じることで発症します。呼吸器系や消化器系の感染症の1~2週間後に手足のしびれや力の入りにくさが出現します。数日から数週間のうちに急速に進行し、重症化すれば呼吸筋麻痺に至ります。重症例では免疫グロブリン療法、血漿交換療法などを選択します。

## ●片頭痛

頭の片側または両側におこる拍動性の頭痛で、若い女性に多く見られます。頭痛のおこる前にきらきらした光る点や線が見えたり、しびれなどの異常感覚が前兆として出現することがあります。軽度~中等度の頭痛には非ステロイド性消炎鎮痛薬を、中等度~重度の頭痛にはトリプタン系薬剤を使用します。発作予防にはカルシウム拮抗薬、バルプロ酸などを使用します。



新型コロナウイルスに関して医療関係者の頑張っている人たちへ虹を掲げてエールを贈る「#虹バトン」という取り組みが行われており、当院北側のビルの窓に大きな虹の絵が張ってありました。虹の下には、

「病院の皆様 WE RESPECT YOU」  
(病院のみなさまに敬意を払います)」というメッセージが!!

## ■新任医師の紹介

### 整形外科医師 石川 朋美

今年度より浜松労災病院整形外科に勤務することになりました石川朋美と申します。

もともと静岡県出身で、浜松市にもなじみがあります。平成27年に福井大学を卒業し、聖隷三方原病院で初期研修から4年半勤務させていただきました。その後半年間、医局である京都大学医学部附属病院整形外科での研修の後、浜松に戻って参りました。

地域の医療に少しでも貢献できるよう、精進していく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



### 整形外科医師 陳 勁溪

4月から整形外科に赴任してきました陳 勁溪です。

台湾の出身です。2016年長庚大學醫學系を卒業し、肝臓移植が有名な高雄長庚紀念醫院で1年間卒後研修を修了しました。2018年日本医師免許を取得し、市立島田市民病院で2年間初期研修を修了し、浜松労災病院に赴任しました。整形外科および救急外来の診療を行って参ります。

微力ですが、この地域の医療に力を注ぐことができれば光栄です。日本で3年目のため先輩の先生、スタッフと協力しながら頑張りますので、よろしくお願いいたします。



## <診療の再開と休診のご案内>

脳神経内科（神経内科）の診療につきましては、6月9日（火）から隔週にて再開いたします。

なお、耳鼻咽喉科の診療については、6月末まで休診とさせていただきますが、再開時期が決定しましたら、ホームページ等で広報いたします。

皆様にはご不便とご迷惑をおかけしますが、御理解くださいますようお願い申し上げます。

独立行政法人 労働者健康安全機構

電話 053-411-0366

受付時間

浜松ろうさい病院 地域医療連携室 fax 053-411-0315 月～金 8:15～18:00 土 8:15～12:00